

IV-9 四国地方の公共事業におけるPI 調査事例について

高知工科大学 正会員 大谷 英人

香川大学工学部 正会員 角道 弘文

国土交通省四国地方整備局 正会員 守屋 正平

(株)富士建設コンサルタント 正会員○友澤 隆則

1. はじめに

公共事業を計画実施するに当たり、事業に関する情報公開を行い、広く市民の意見を聞くパブリックインボルブメント（PI）が重要視されつつある。

土木学会四国支部 四国社会資本問題研究会では、平成9年度「四国地方の市民参加型公共事業の進め方に関する研究会」を発足し研究を進めてきた。研究の一環として平成14年実施した、四国地方の公共事業におけるPI事例調査について報告する。

表-1：県別事例調査数(事業件数)

県	一 次 調 査	二次調査	
		PI 事例 調 査	ヒアリン グ調査
香川県		13	4
愛媛県		5	2
高知県		5	3
徳島県		20	3
合計	約 100 件	43	12

2. 調査手法・件数

調査は 国土交通省、各県事業者から、PI を実施した事業リストの提出を受けた一次調査、及び、個別事業について詳細に調査する二次調査からなる。さらに、二次調査は PI の目的、手法、プロセス等について、調査票に事業者側担当者が記入する「PI 事例調査」、並びに研究会担当者が、直接事業者側担当者と面接して実施する「ヒアリング調査」に分けられる。以下、二次調査のうち「PI 事例調査」

の結果を示す。

各県には国土交通省・市町村事業を含む

3. PI の手法、対象及び実施段階

事例調査 43 件について、PI の手法、PI 対象事業、PI 実施段階区分(それぞれ複数回答)を図-1～3に示す。手法については、委員会・懇談会、ワークショップ(WS)で全体の 60%以上を占める。対象事業の種類としては道路、都市・地方計画、公園緑地が多いものの、住宅、環境、景観等、多岐にわたっている。実施段階では企画構想、基本・概略設計段階が全体の 75%を占める。

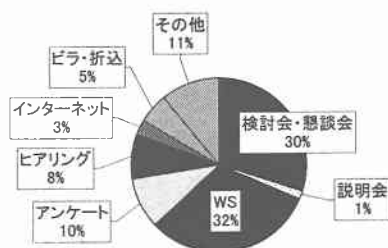


図-1:PIの手法 (全73件)

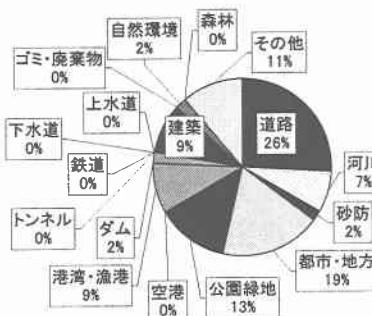


図-2:PIの対象 (全54件)

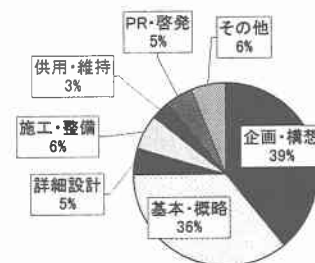


図-3:PIの実施段階 (全64件)

4. PI 実施状況

PI 実施状況に関する調査のうち、PI 1回当たりの参加者数（図-4）、PI 参加者の属性（図-5）、参加者募集の方法（図-6）、参加資格（図-7）、PI の公開性（図-8）についての調査結果を示す。ここで示し

たのは、委員会・懇談会、WS形式など、会議方式のPIが中心となっている。

1回の参加者数は11人から15人の事例が最も多い。参加者の属性では、調査事例の80%以上のPIに地域住民が参加している。参加者の募集は、事業者の推薦、地域の推薦が多いが、公募により決定したものも26%含まれる。PIの公開性については、90%以上が公開又は公開性を規定しておらず、非公開としたのは7%である。

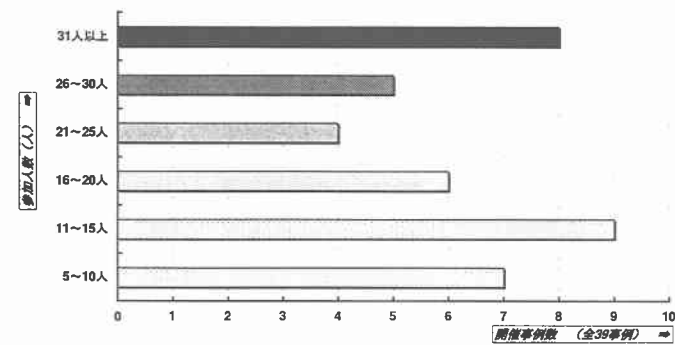


図-4: PI 1回当たり参加者数
(最大70人、平均23.9人)

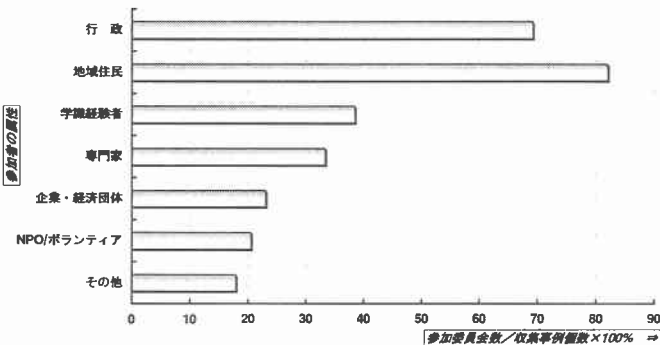


図-5: PI参加者の属性
(委員会・WS等 全39例)

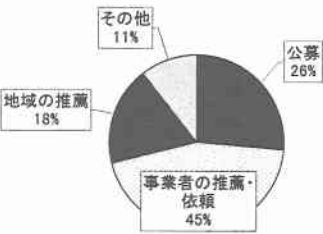


図-6: 募集の方法 (全38事例)

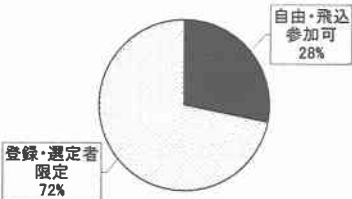


図-7: PI参加資格 (全39事例)



図-8: PIの公開性 (全42事例)

また上記の他、PI開催に要したスタッフ数、PIの回数、開催日・実施内容の時系列的な記載、PIで良かったこと・苦勞したこと、反省点等について記述していただいた。

現時点においては、委員会・懇談会、WS等会議形式のPIについてのとりまとめであるが、本調査の中で寄せられたアンケート調査、インターネット利用、新聞折り込み等の手法、PIで良かったこと・苦勞したこと等についての調査結果も、今後とりまとめを行う予定である。

5. 調査結果のとりまとめ

本事例調査と同時に実施したヒアリング調査では、実施したPIの評価の試みを実施している。一次調査リスト、事例調査、ヒアリング調査及びPI評価指標等については「四国地方の市民参加型公共事業の進め方に関する調査研究報告書：(社)土木学会四国支部 社会資本問題研究委員会」としてとりまとめている。

6. おわりに

今後、さらに数多くの事業においてPIがなされると思われる。本調査成果が、実際にPIを計画・実施するための参考になれば幸いである。

本調査に当たり協力いただいた関係各位に深く感謝の意を表す。